【目的】
大分県では次世代型施設園芸拠点において、地熱を利用した高齢高パプリカ生産施設が稼働している。パプリカはビタミン A, C, E などの成分が豊富で、品種毎の傾向を掴むことで有利販売につながる可能性がある。そこで、パプリカの成分について時期別、品種別を推移を明らかにするため分析を行ったので概要を報告する。

【材料および方法】
1) 試験場所: 大分県玖珠郡九重町、標高約 700m（フェンロ型ガラスハウス）
2) 供試品種（果皮色別）
   赤果色: 「ナガノ※1」「UN-506R※3」「ケーシー※1」「ファブリス※1」「ステルス※4」
   黄果色: 「オールラウンダー※1」「ジョリット※1」「カイテ※2」
   橙果色: 「オランディーノ※2」「アランシア※1」
※1ライクズワーン社、※2 エンザ社、※3横浜植木、※4ウェストラントシード
3) 調査期間: 2018年 5月～11月、月 1回
4) 標本サイズ: 1品種につき 5個

表1 アスコルビン酸含量の推移（mg/100g）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ナガノ（赤）</td>
<td>121</td>
<td>119</td>
<td>117</td>
<td>n.s.</td>
<td>134</td>
<td>134</td>
<td>144</td>
</tr>
<tr>
<td>UN-506R（赤）</td>
<td>109</td>
<td>106</td>
<td>108</td>
<td>n.s.</td>
<td>132</td>
<td>121</td>
<td>141</td>
</tr>
<tr>
<td>ケーシー（赤）</td>
<td>115</td>
<td>102</td>
<td>118</td>
<td>n.s.</td>
<td>124</td>
<td>110</td>
<td>122</td>
</tr>
<tr>
<td>ファブリス（赤）</td>
<td>121</td>
<td>111</td>
<td>121</td>
<td>n.s.</td>
<td>119</td>
<td>111</td>
<td>119</td>
</tr>
<tr>
<td>ステルス（赤）</td>
<td>119</td>
<td>115</td>
<td>121</td>
<td>n.s.</td>
<td>126</td>
<td>126</td>
<td>155</td>
</tr>
<tr>
<td>オランディーノ（橙）</td>
<td>117</td>
<td>101</td>
<td>128</td>
<td>n.s.</td>
<td>129</td>
<td>117</td>
<td>123</td>
</tr>
<tr>
<td>ジョリット（黄）</td>
<td>117</td>
<td>111</td>
<td>127</td>
<td>n.s.</td>
<td>135</td>
<td>121</td>
<td>148</td>
</tr>
<tr>
<td>カイテ（黄）</td>
<td>101</td>
<td>113</td>
<td>122</td>
<td>n.s.</td>
<td>135</td>
<td>121</td>
<td>132</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※Tukey法により異文字間に 5%水準で有意差あり、n.s.は有意差なし。